

# タイガーエア米子便出国者 アンケート調査結果の概要

山陰インバウンド機構

# 調査概要

- 調査日  
2025年6月16日(月)～7月11日(金)までのタイガーエア台北・米子便の運航日（計8日間）
- 調査方法  
Googleフォームで調査票を作成、二次元バーコードを印刷したチラシを出国待機者に配布し回答を依頼
- 収集サンプル数 298
- 集計方法  
幣機構で2024年度に実施した山陰来訪経験者調査における台湾の方の集計結果と比較  
※なお幣機構の調査と本調査では異なるアンケートフォームを利用しており、本調査で利用したGoogleフォームと設問の設定が一部異なるため単純比較はできない設問がある

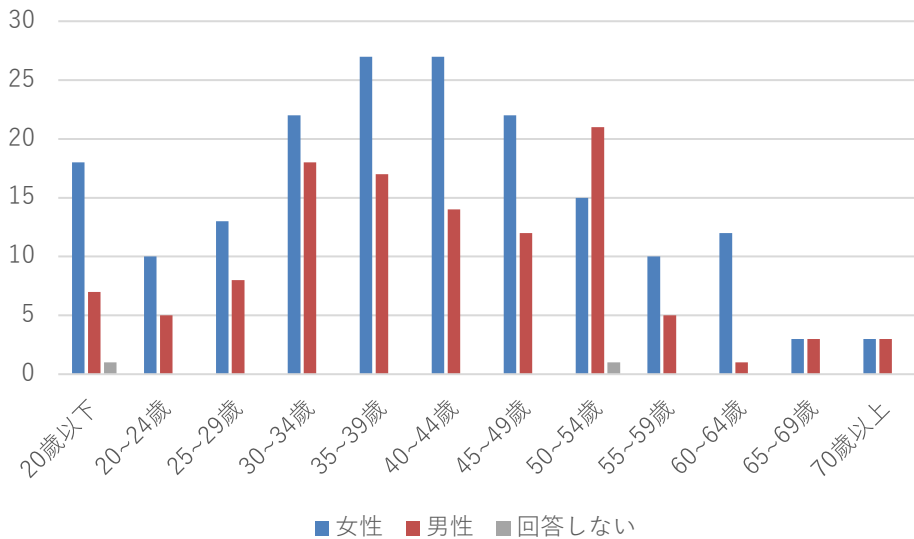
## 【参考】 幣機構での調査

- 調査日 2024年8月～2025年2月
- 調査対象 香港・台湾在住で2022年10月～2024年8月までの間に山陰来訪経験のある人
- 調査方法 オンライン
- 収集サンプル 台湾639

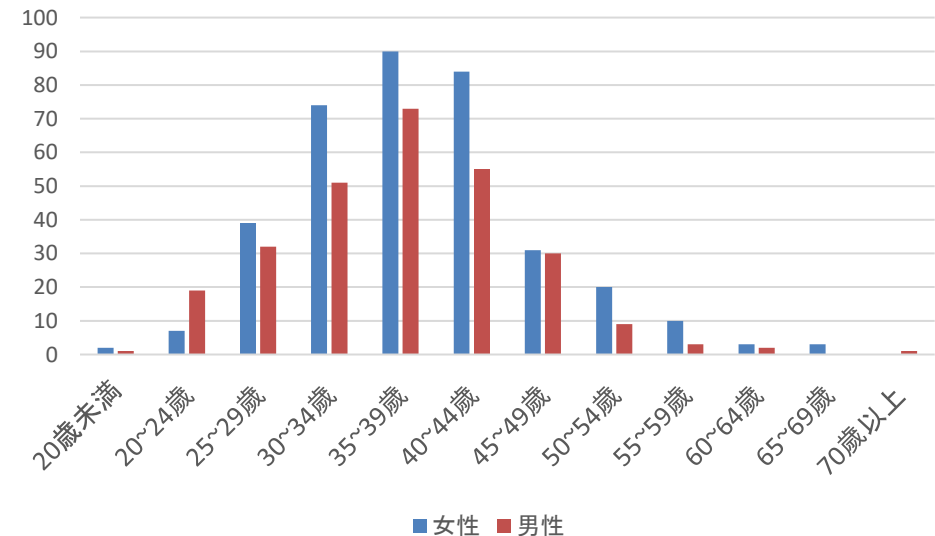
# 回答者プロフィール

- 本調査では、弊機構の2024年度調査と比べると20歳以下の割合が多く、家族連れでの来訪が多かったことが伺える。
- また、2024年度調査では人数割合が少なくなっていた50歳以上についても利用客が多かった。

本調査

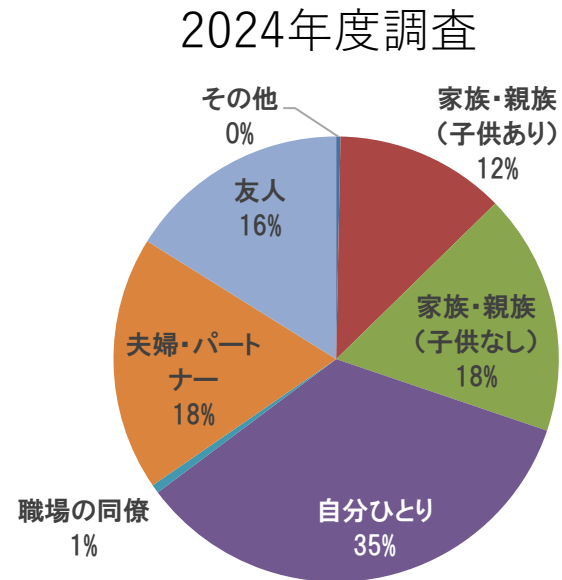
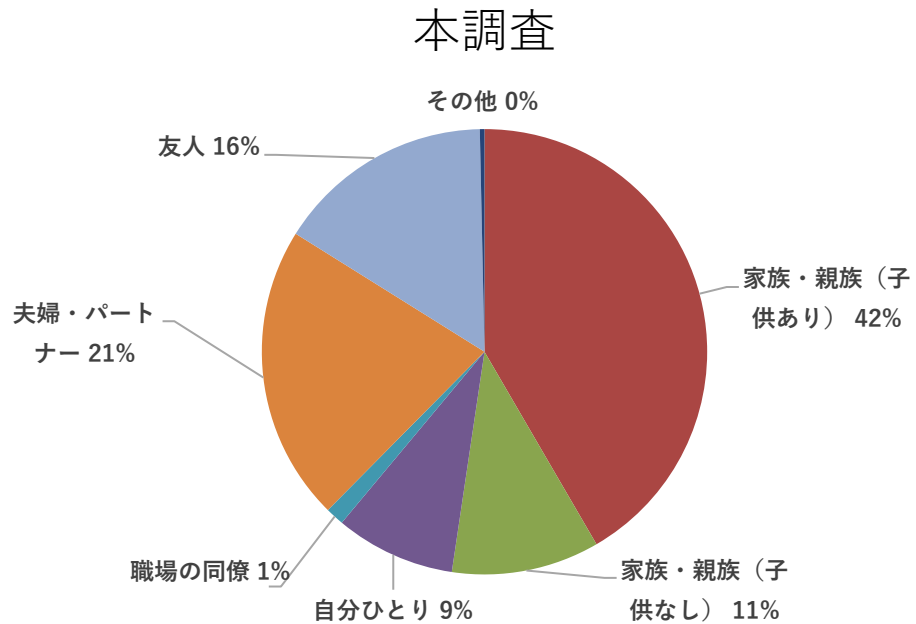


2024年度調査



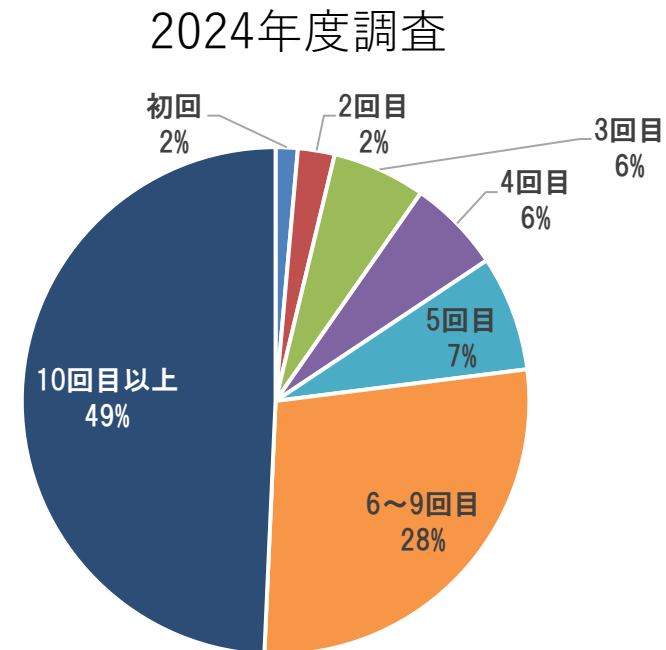
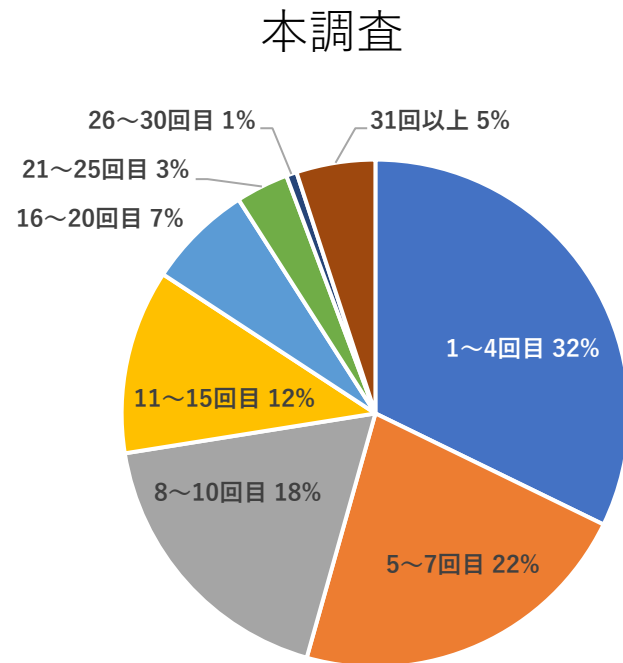
# Q1.同行者

- 本調査では「家族・親族（子どもあり）」比率が高く、ひとり旅比率が低い特徴があった。



# Q2. 訪日経験

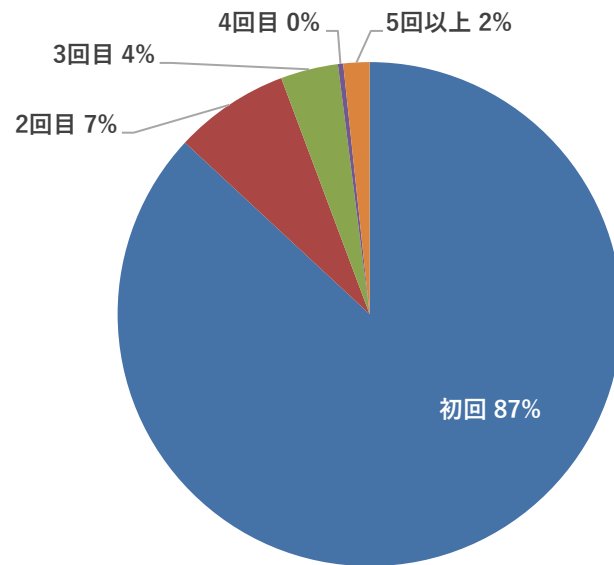
- 選択肢が異なるので単純比較はできないが、本調査では訪日経験は少ない傾向があった。



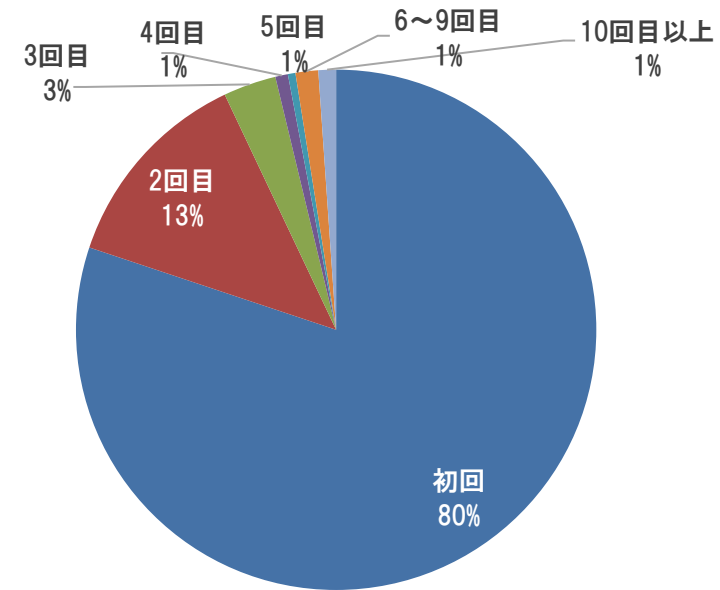
# Q3.山陰来訪経験

- 山陰来訪経験はあまり変わらず、初回訪問が9割弱であった。

本調査

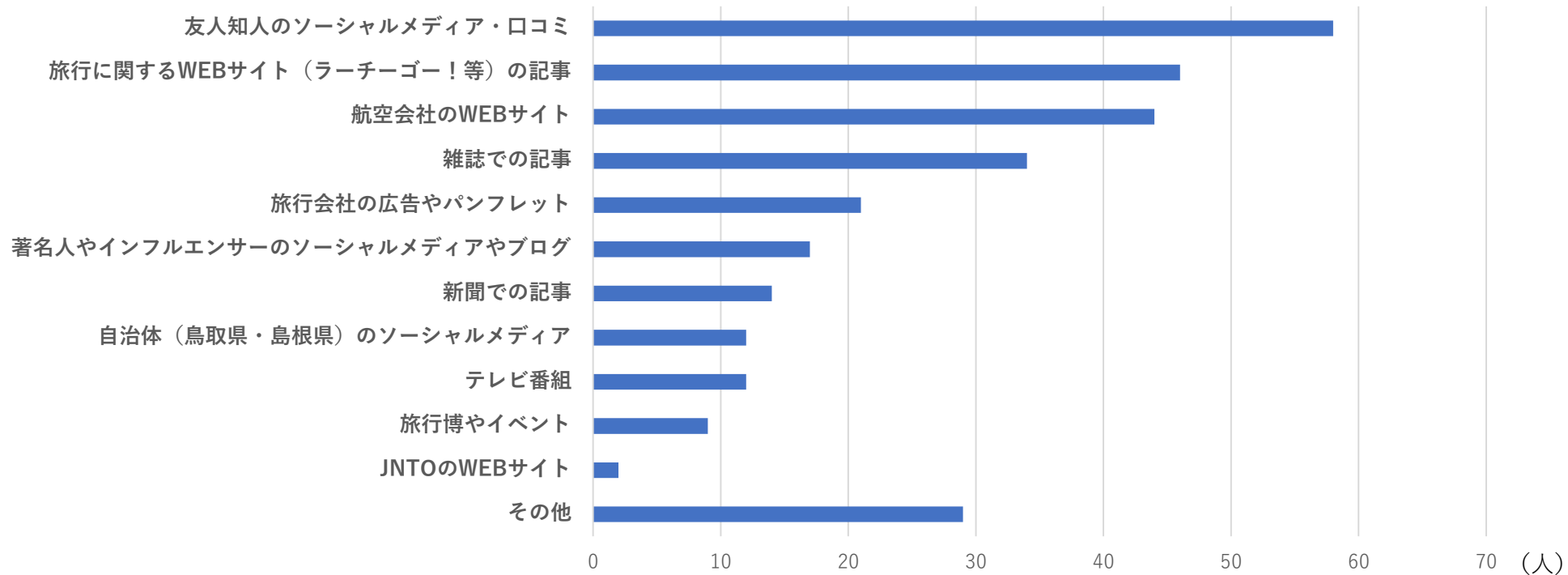


2024年度調査



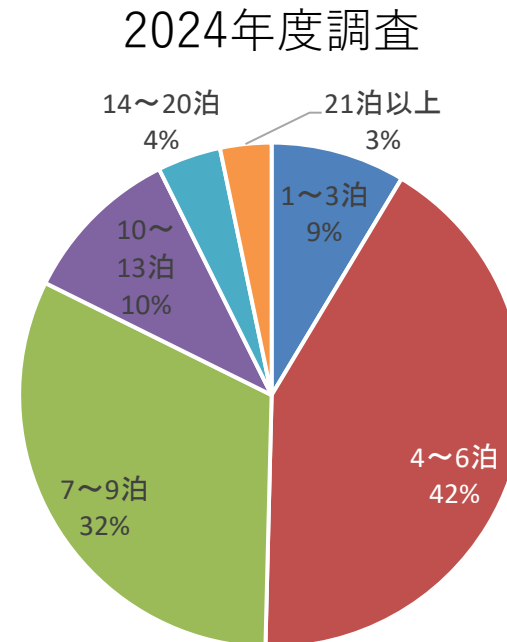
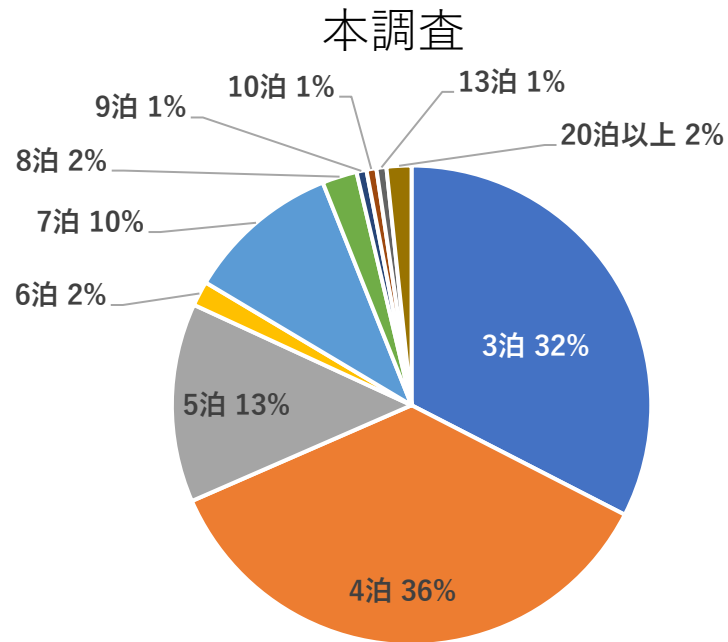
# Q4.山陰を知ったきっかけ

- 本調査のみの設問。（単一回答）  
友人・知人のソーシャルメディアや旅行に関するWebサイトが多い。



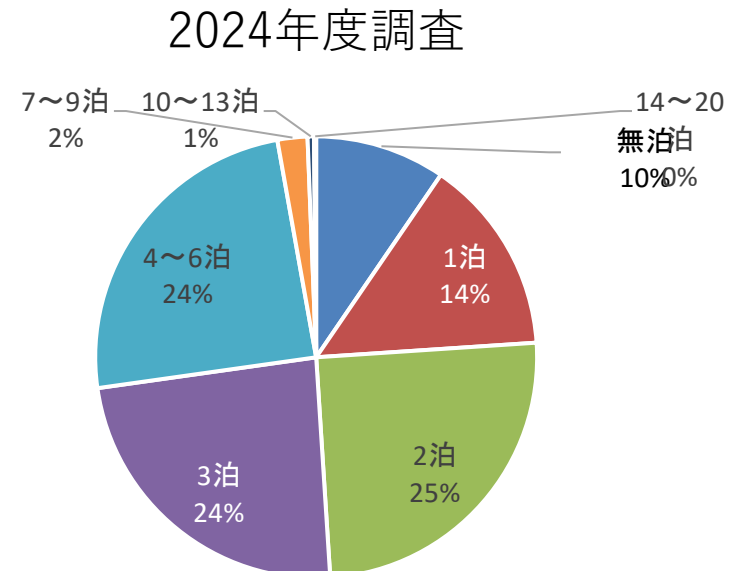
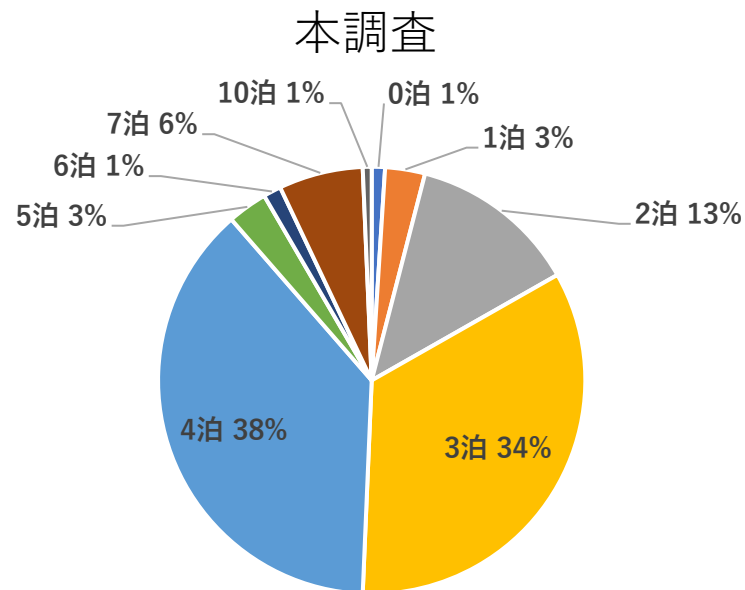
# Q5.訪日時 の泊数

- 2024年度調査では4～6泊が最多で次が7～9泊であったが、本調査では3泊及び4泊がそれぞれ1/3を占めており、月曜～金曜、もしくは金曜～月曜での米子便往復利用者が多いことが推察される。



# Q6.山陰での泊数

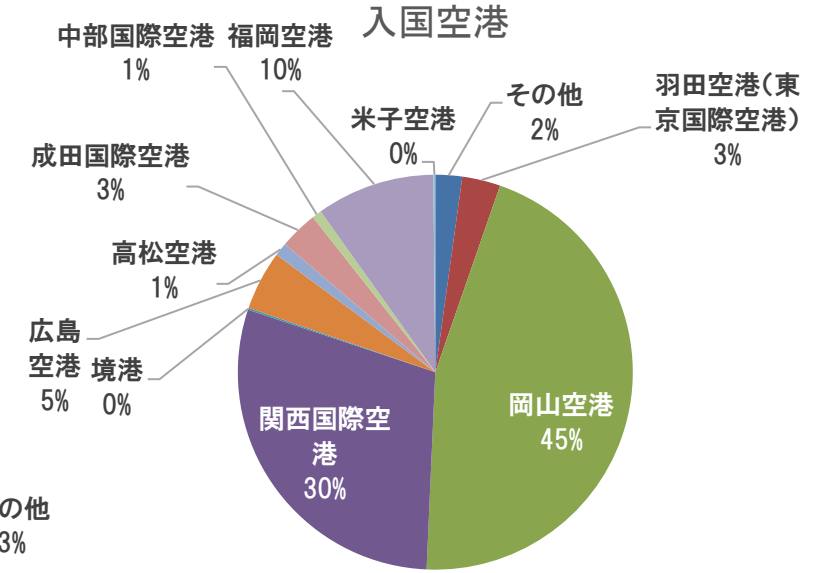
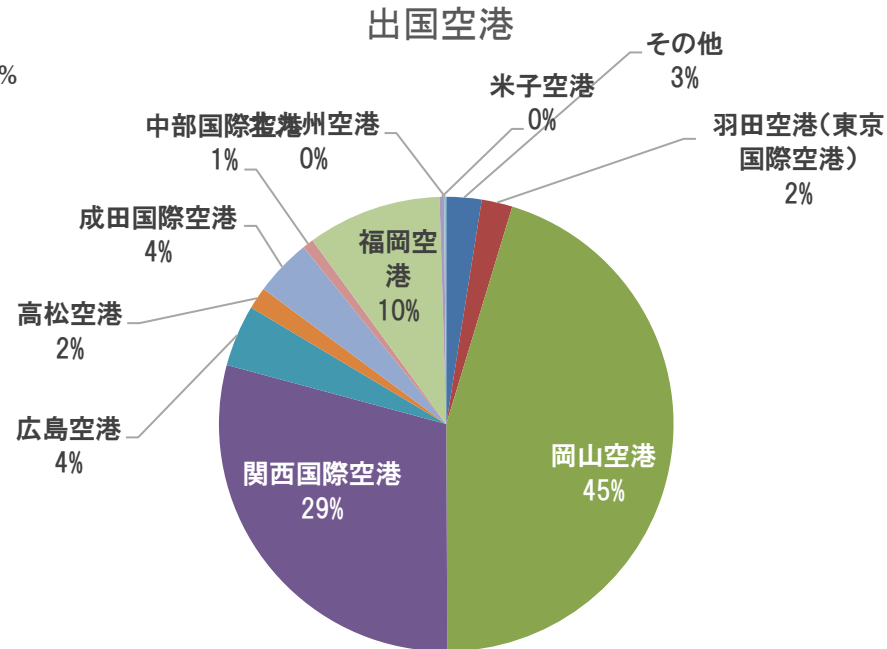
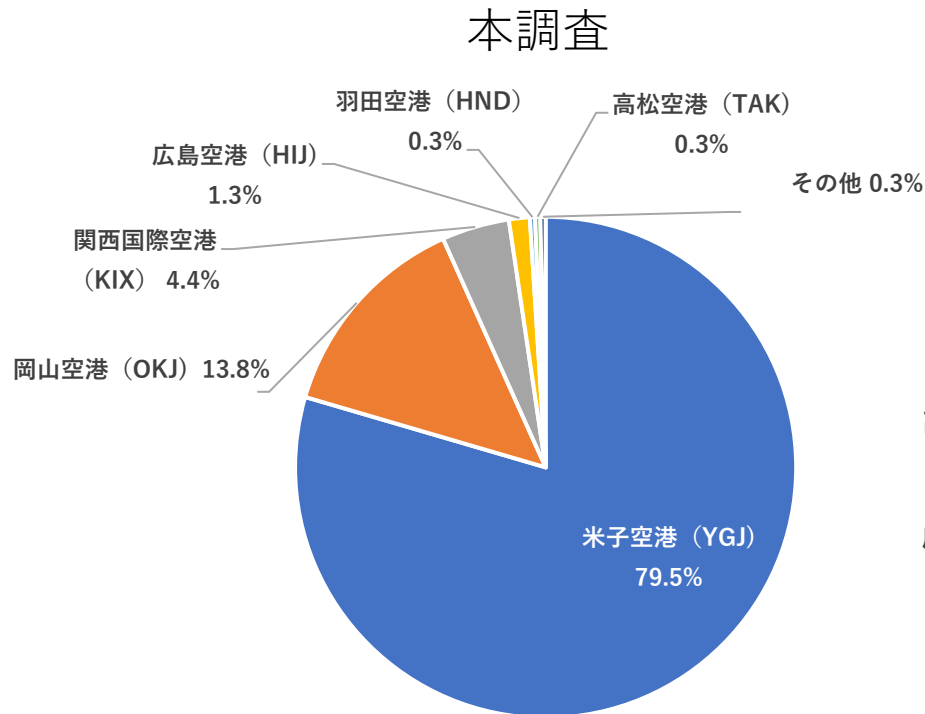
- 本調査の場合、月曜に調査すると3泊（金曜～月曜）、金曜に調査すると4泊（月曜～金曜）が多い。これはタイガーエアの便に合わせて来ているため当然の結果といえる。
- 2024年度調査では山陰での宿泊数は3泊以上で半分だったが、本調査では3泊以上は8割以上。山陰での宿泊数はやはり米子便利利用者の方が多い傾向。



# Q7.入国した空港

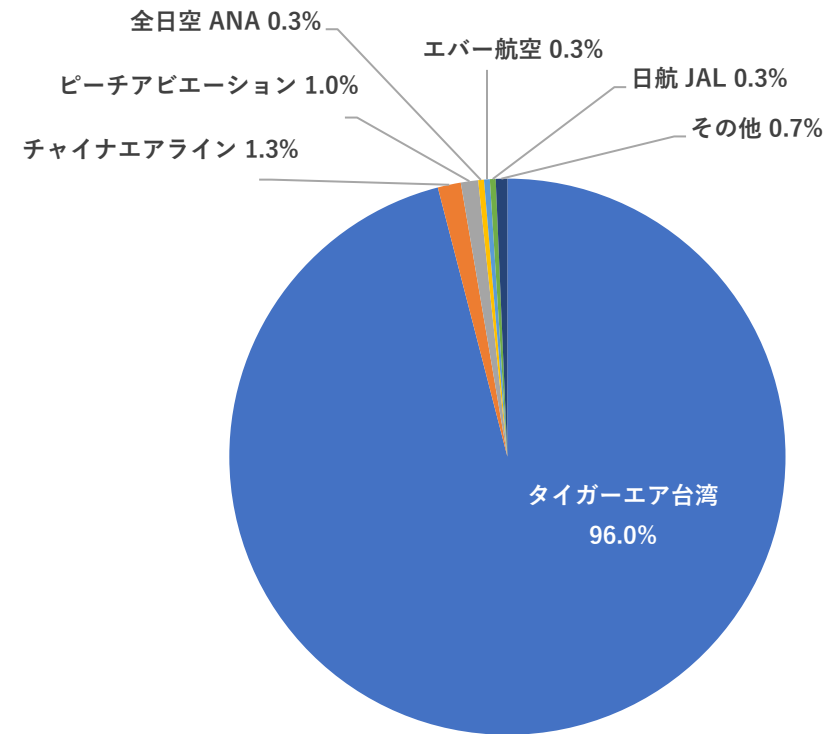
2024年度調査

- 本調査では、米子便往復利用者が約8割。



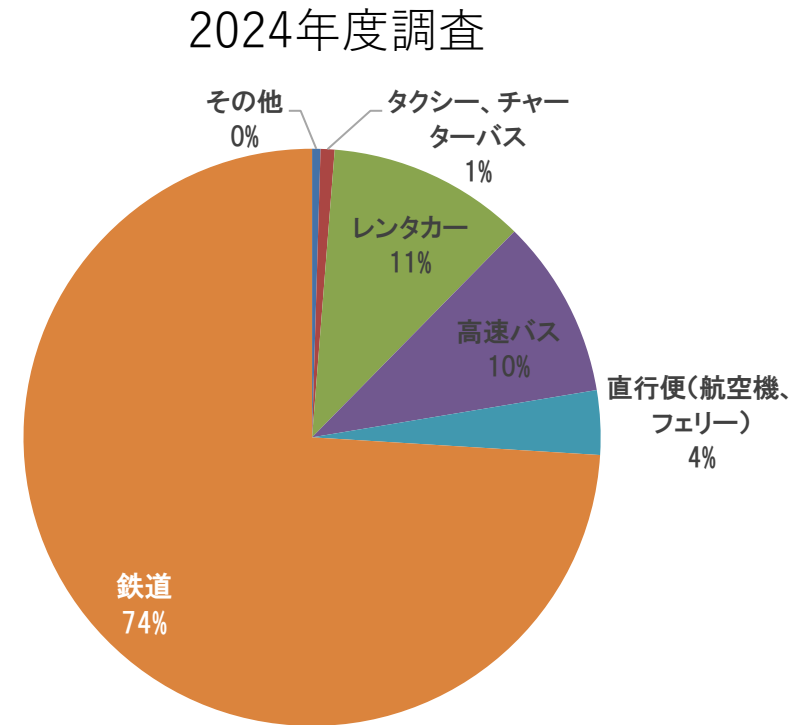
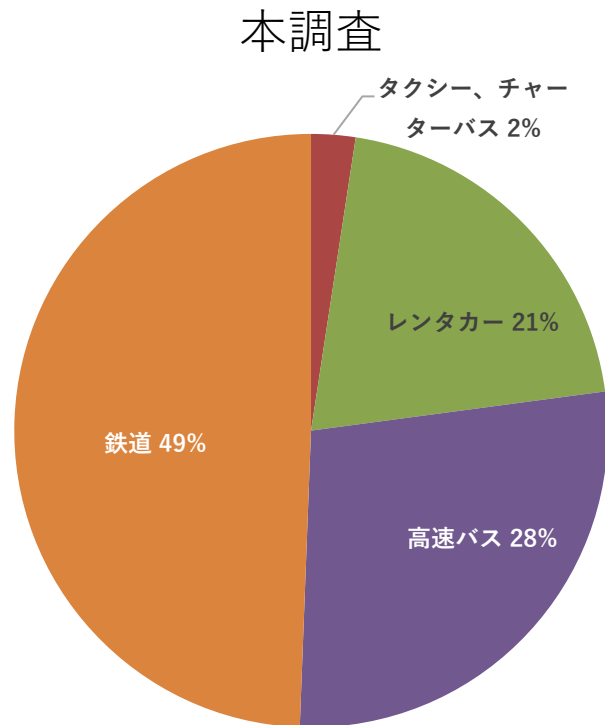
# Q8.入国時に利用した航空会社

- 本調査のみの設問。
- タイガーエア利用者がほとんど。Q7の米子空港及び岡山空港から入国した合計に近い数字となっている。
- タイガーエア以外を利用している人が一定いる。LCCは片道利用されることがあるのはわかるが、入国時にJALを利用している人がいるのは驚き



# Q9. 山陰までの移動手段 (米子空港以外から入国した人のみ)

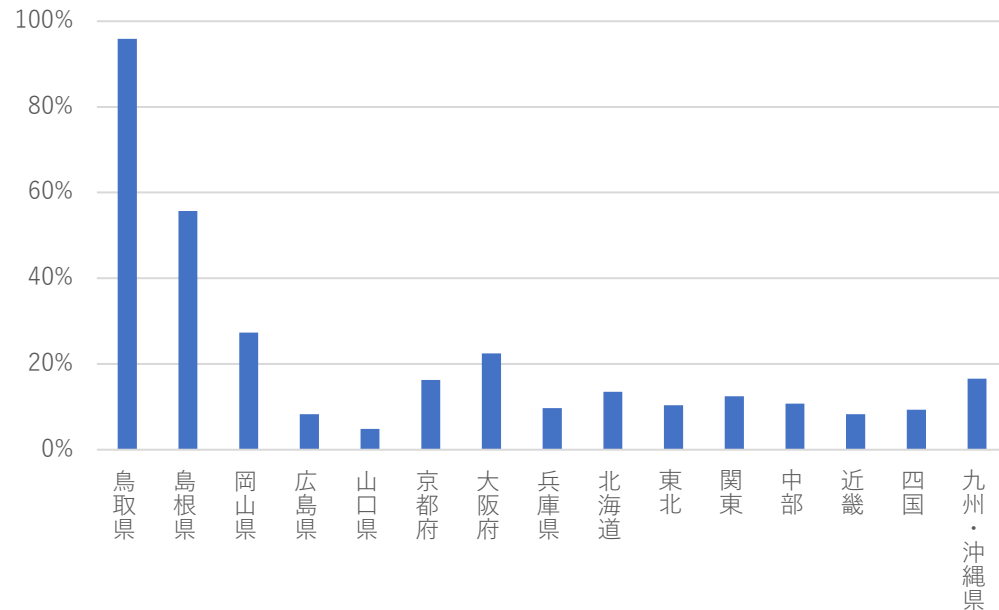
- 本調査でも鉄道利用が最も多いが、レンタカー利用が約2割を占めており、ワンウェイレンタル需要が一定数あることが伺える。



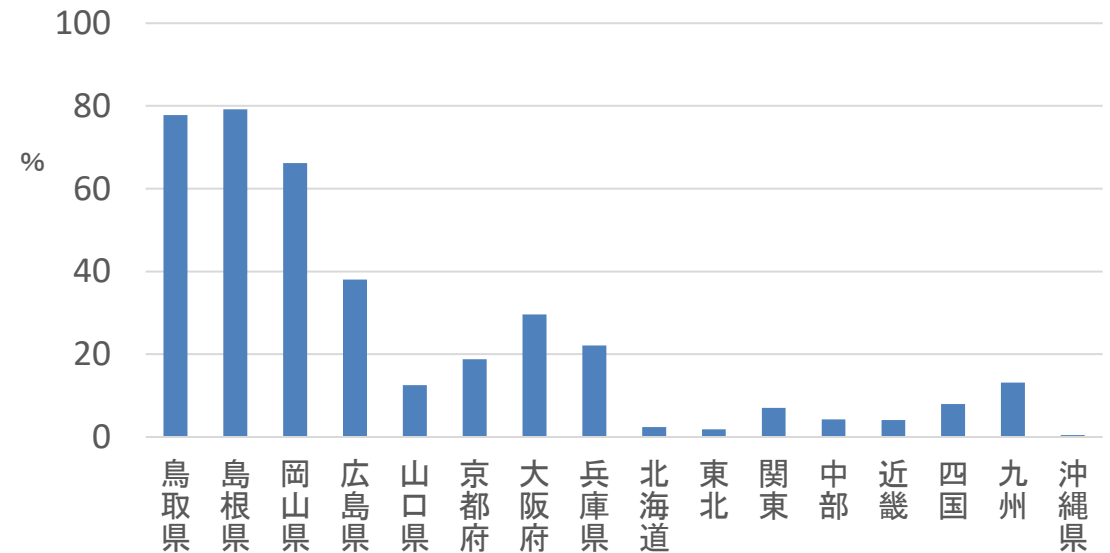
# Q10.どの都道府県を訪問したか

- 本調査の場合、鳥取県のみ、あるいは鳥取県と島根県のみという人が6割弱だった。
- 岡山県、広島県、山口県、兵庫県など近場への周遊は少ないものの、京都府や大阪府など遠方に訪れた人がそれぞれ2割前後となった。

本調査

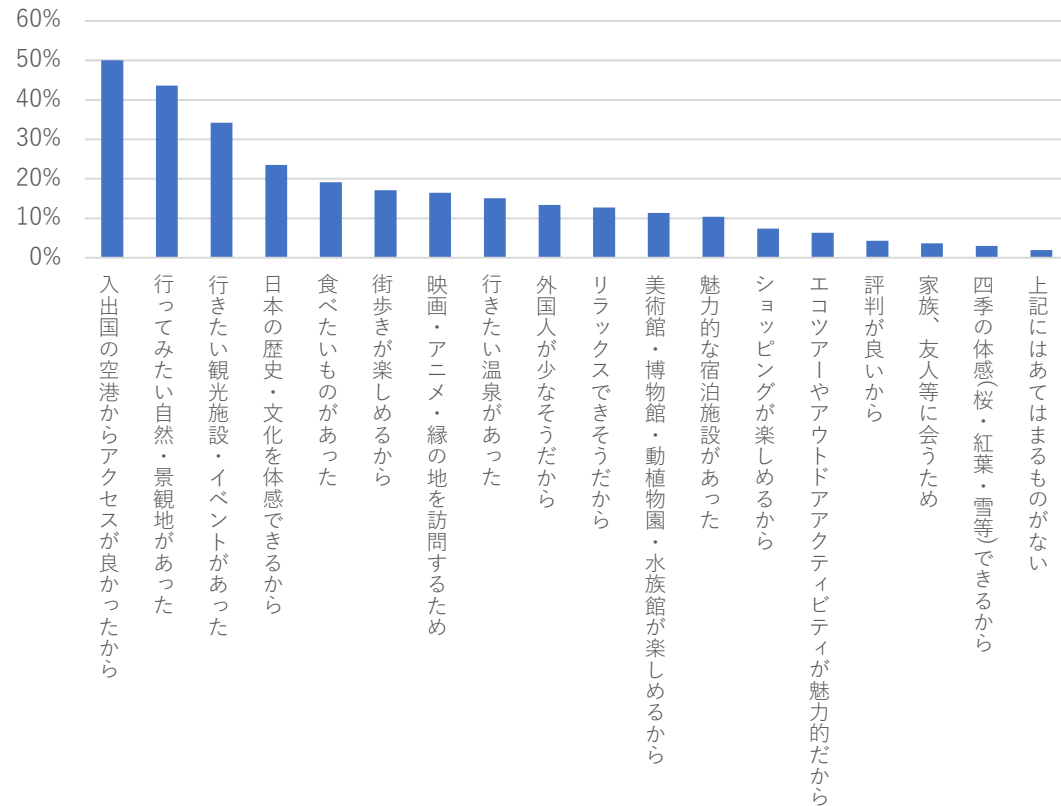


2024年度調査

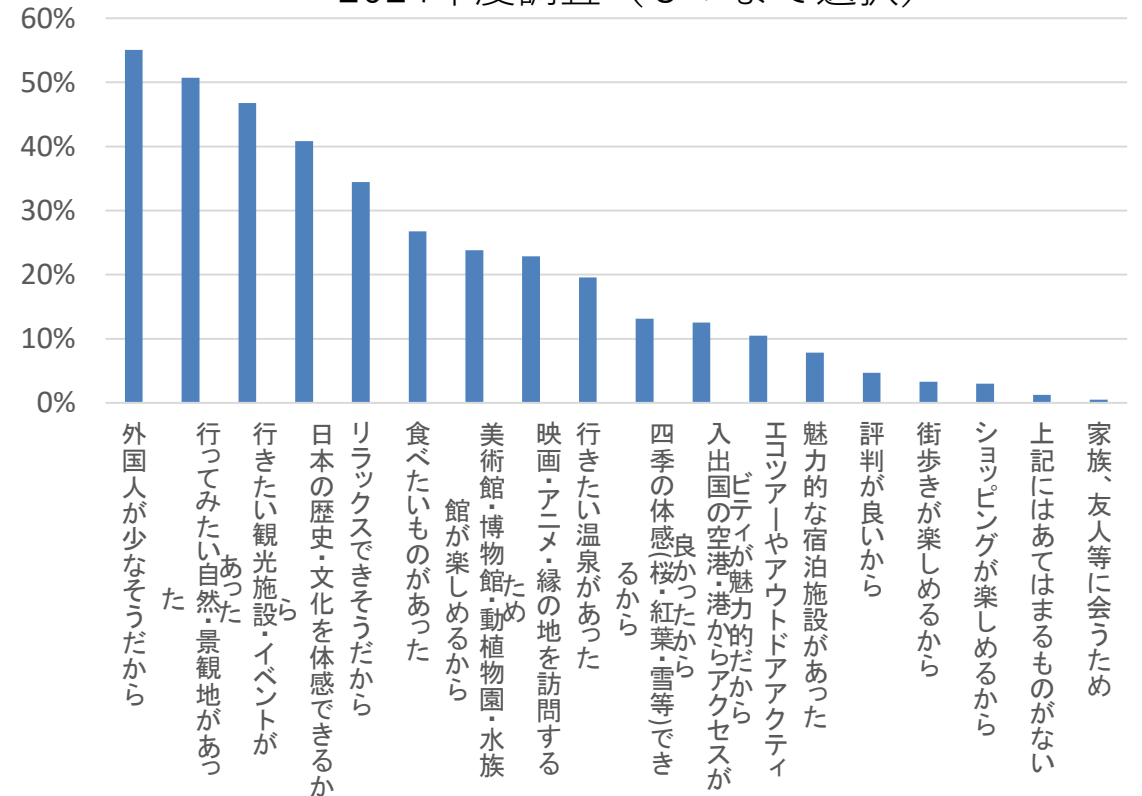


# Q.11 山陰を旅行先として選んだ理由(複数選択)

- 本調査では、「自然」「アクセス」を理由とする人が多い。2024年度調査でトップだった「外国人が少なそう」はあまり多くなかった。2024年度調査と比較して訪日リピーターが少ないことも理由の一つかもしれない。



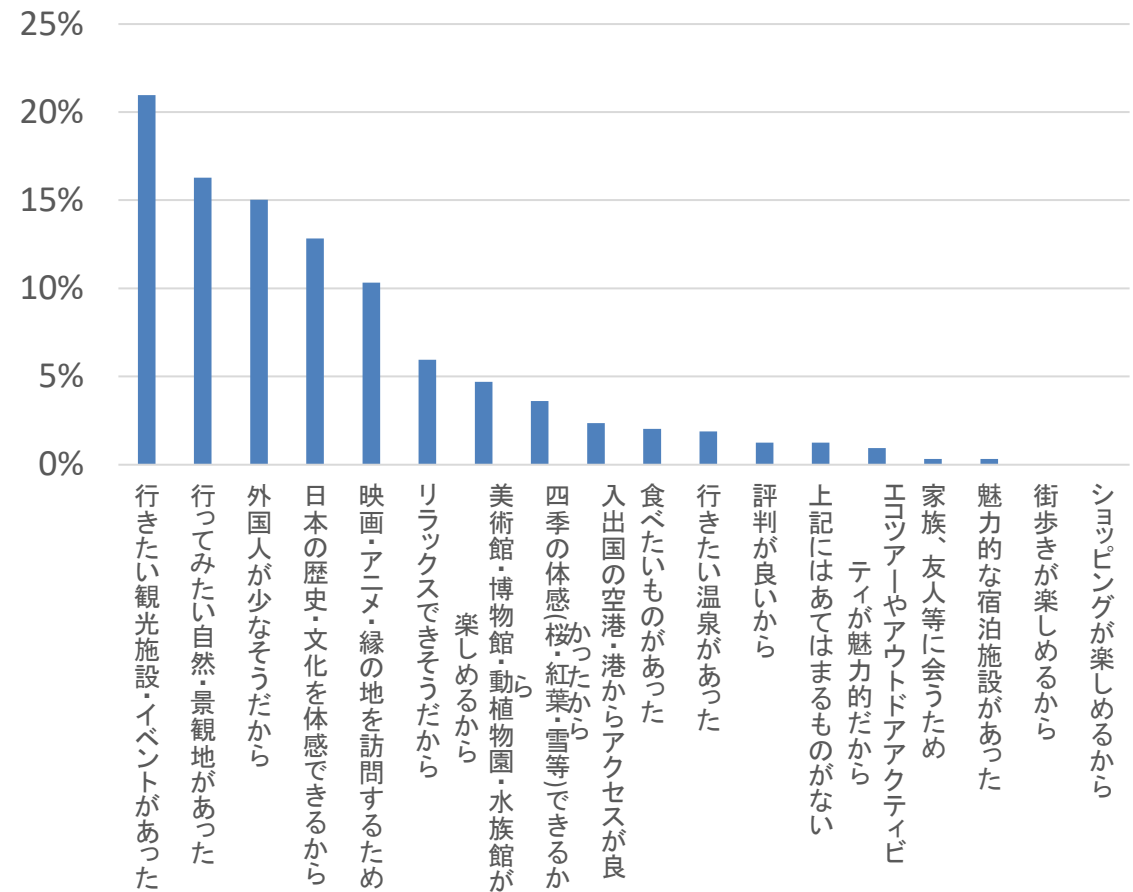
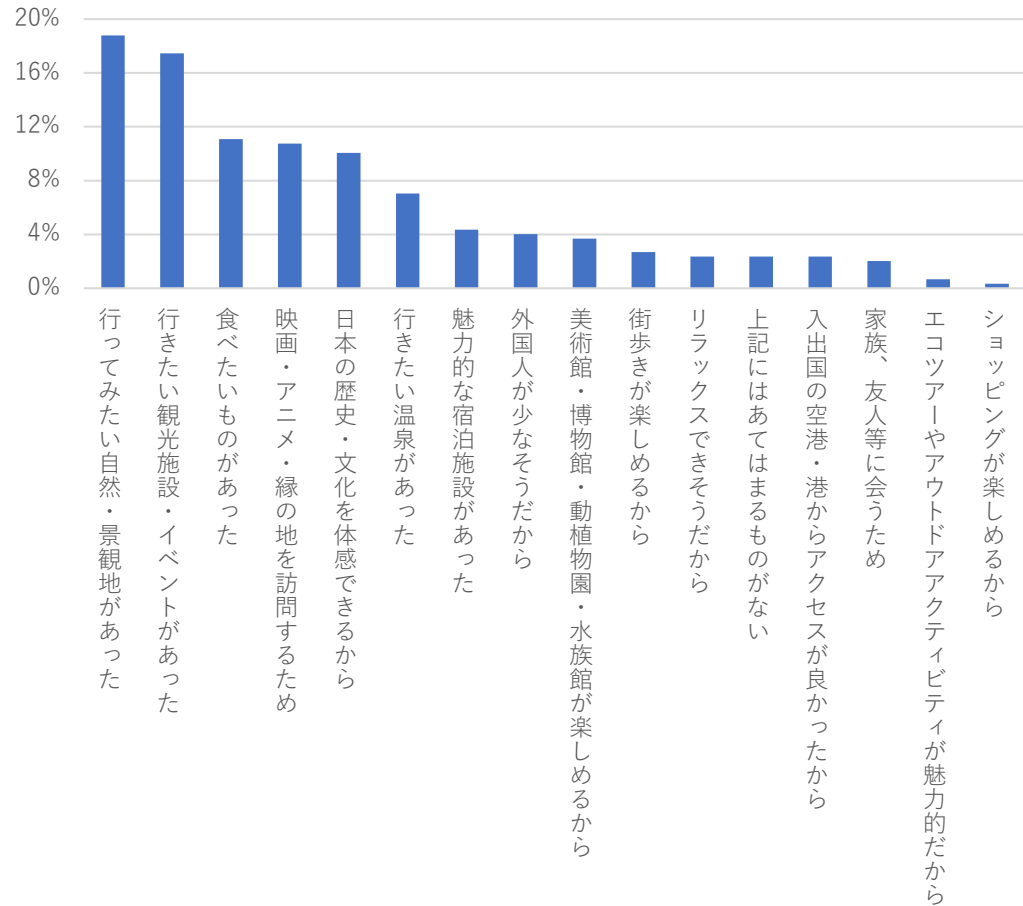
2024年度調査 (3つまで選択)



# Q.12 山陰を旅行先として選んだ一番の理由

2024年度調査

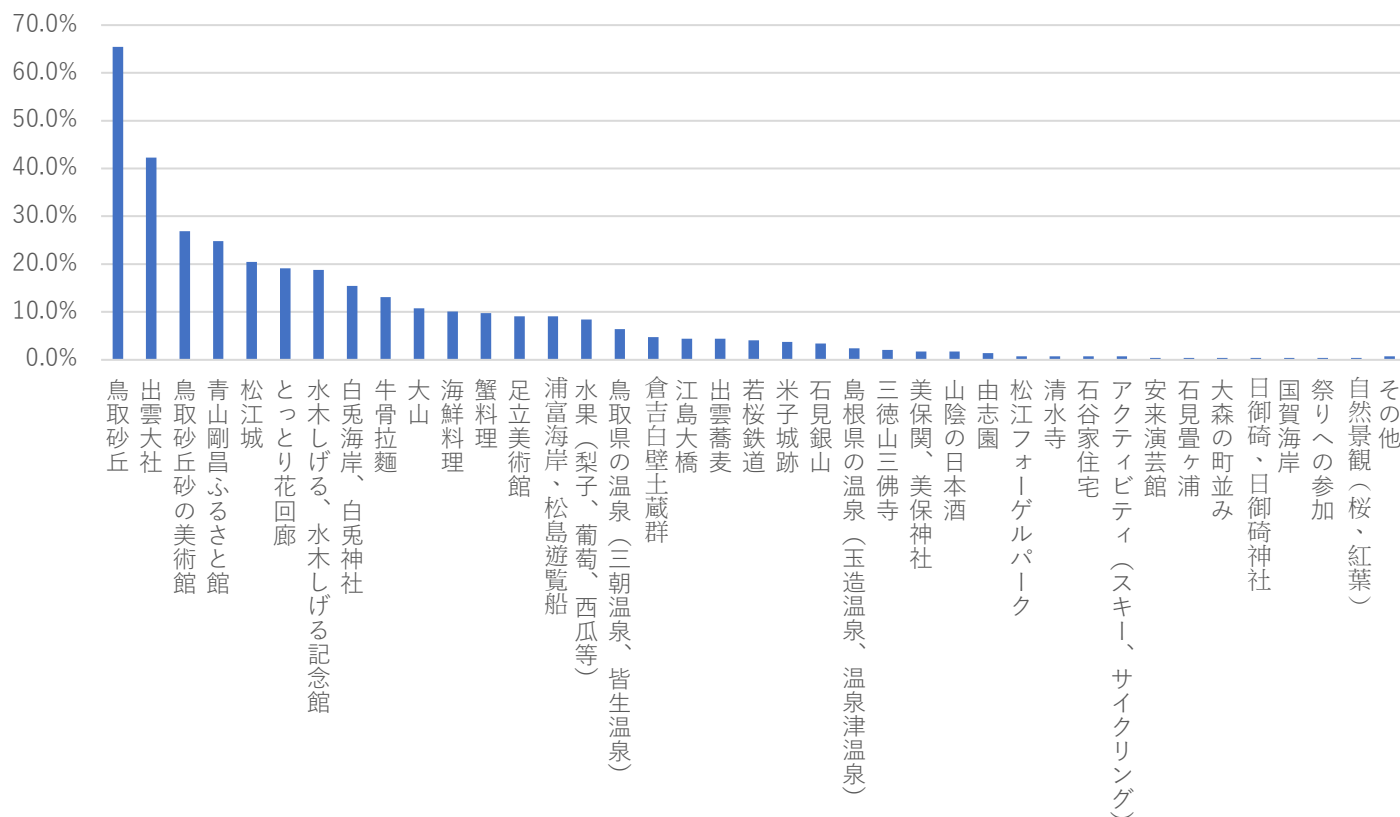
- 本調査では、2024年度調査に比べ「食」「温泉」の比率が高かった。



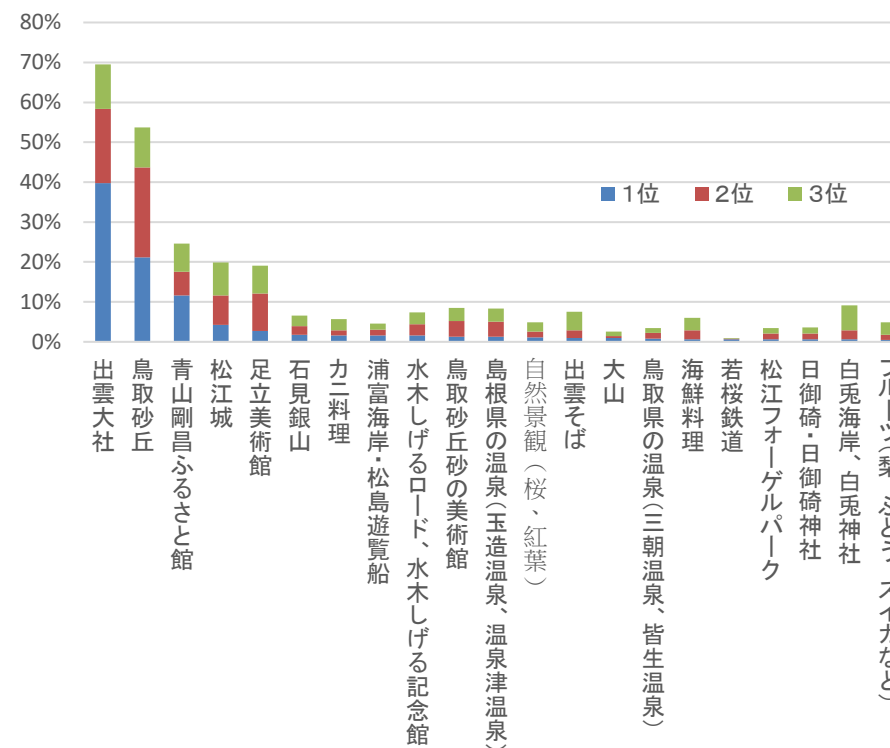
# Q.13 山陰を訪れる前に期待していたスポット

- 本調査では鳥取砂丘が一番多く、出雲大社、砂の美術館、青山剛昌ふるさと館が続く。

本調査(複数選択)



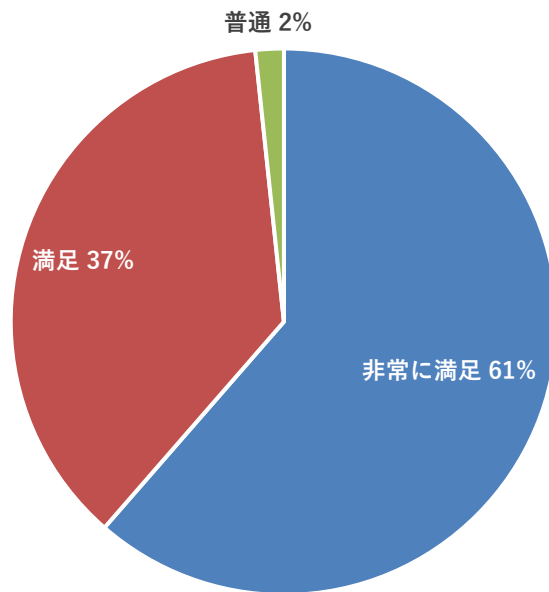
2024年度調査(上位3位まで)



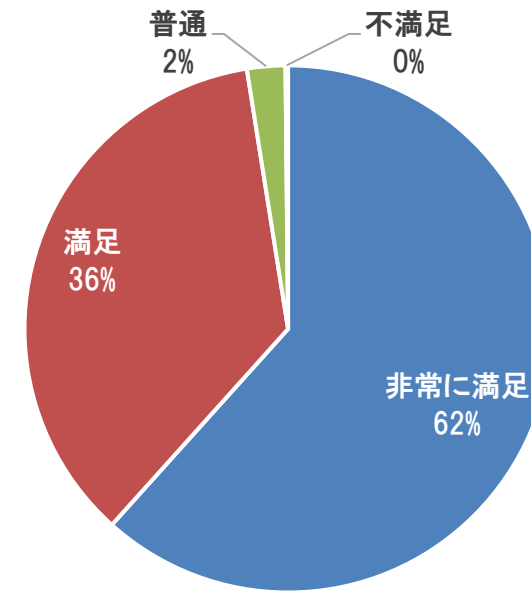
# Q14.山陰訪問全体の満足度

- 本調査の満足度は、2024年度調査とほぼ同程度であった。

本調査

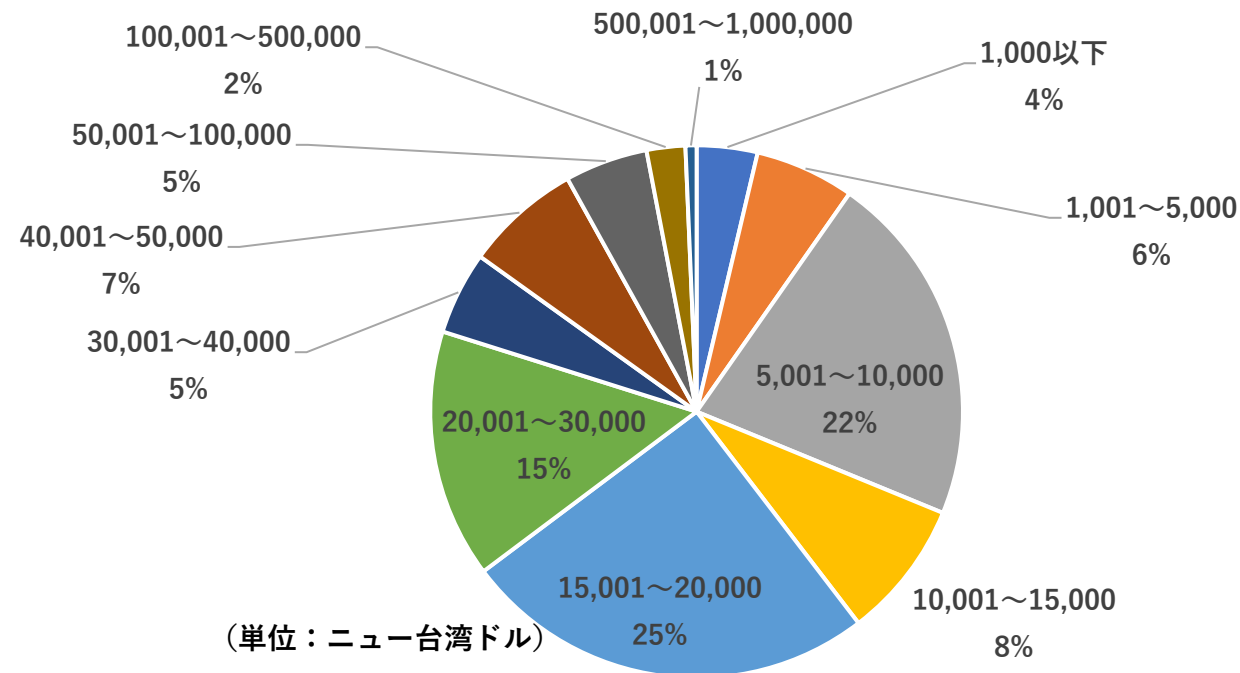


2024年度調査



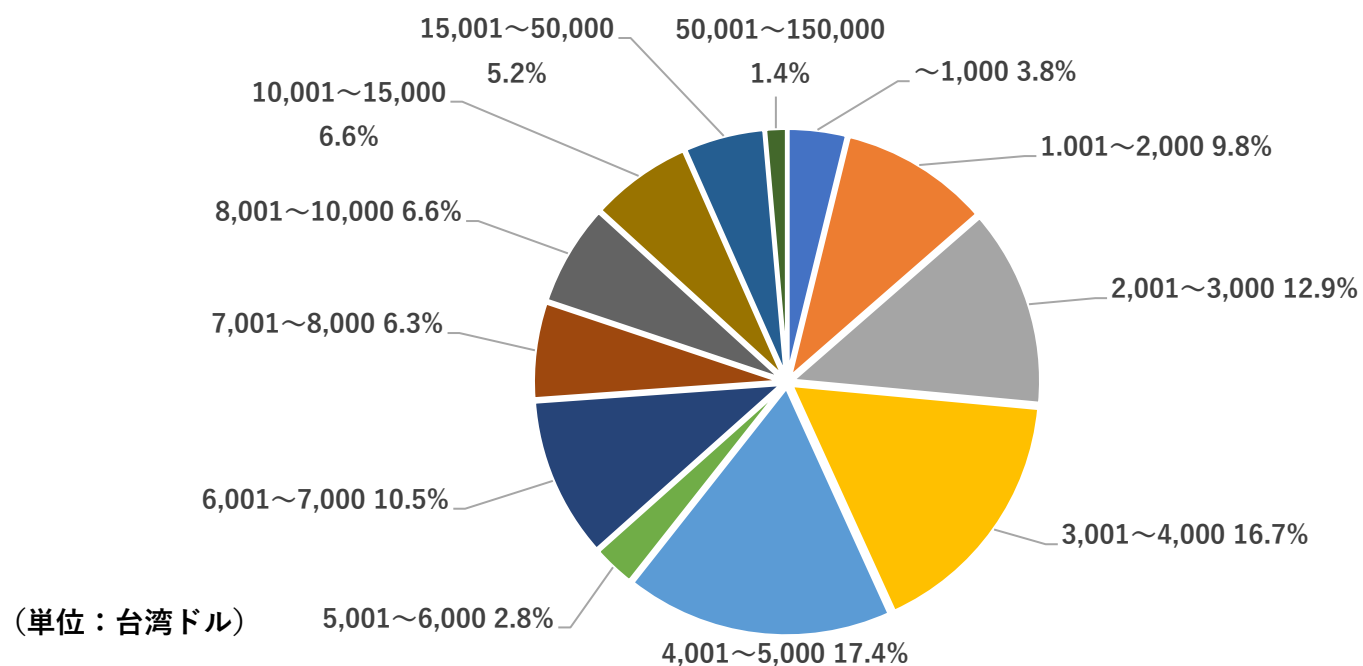
# Q15. 今回の日本滞在時の1人当たり消費金額 (国際線航空券代除く)

- 一人当たりの消費金額は、10,000NTD（ニュー台湾ドル）以下が3割、10,000～30,000NTDが5割、それ以上が2割、全体平均で約35,000NTD。  
※ 1NTD = 約5円（2025年7月18日現在）



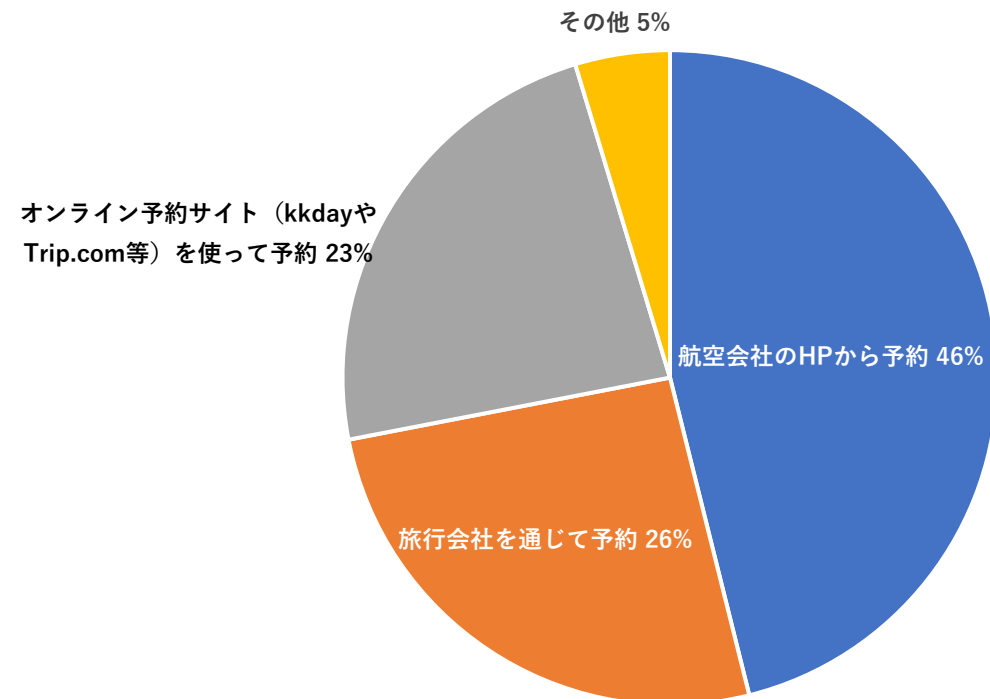
# 【参考】一人一泊あたりの消費額

- 消費金額を日本滞在泊数で割って計算
- 一人一泊当たりの消費金額は、5,000NTD以下が6割、全体平均は約7,700NTDという結果となった。



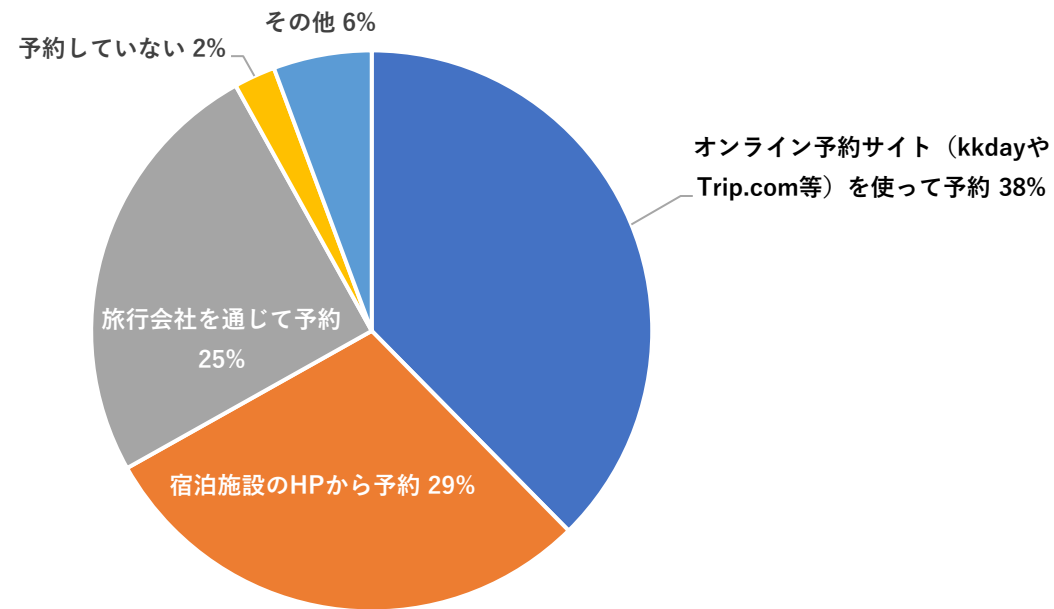
# Q16.国際線の予約方法

- 国際線の予約について、「旅行会社を通じて予約」が26%で全体の1/4程度あった。



# Q17.宿の予約方法

- 宿についても国際線と同様に、「旅行会社を通じて予約」が25%で全体の1/4程度あった。



# Q18.レンタカー利用の有無

- レンタカーを利用した人が3/4いる
- 旅行会社を通じて予約した人が1/4と、国際線・宿と同程度あるところを見ると、国際線・宿・レンタカーをまとめて旅行会社で手配した層が1/4程度あったものと思われる。

